

放課後の子どもたちに安全な居場所がオープン

～鷺別地区放課後子ども教室『ひなわしメート』～

6月11日(水)、鷺別小学校に胆振管内初めての取り組みとなる、鷺別地区放課後子ども教室『ひなわしメート』がオープンしました。

この子ども教室は、小学校の空き教室(2室)や体育館を利用して、放課後の子どもたちの安全で安心な居場所を確保し、地域の方の協力を得ながら、遊びやスポーツ、体験、交流などを行うものです。

水曜日と金曜日の週2回、4月から10月中旬までは放課後から17時まで、10月中旬から3月までは放課後から16時まで、また夏・冬休みは9時から利用することができます。

オープンしたこの日は、登録された83人の鷺別小学校の児童のうち約70人が参加。子どもたちに実行委員の紹介や利用にあたっての説明などが行われたほか、異学年による自己紹介ゲームなどで交流し、にぎやかな声が教室いっぱい響いていました。



▲自己紹介ゲーム

サムライになりきって



～わんぱくサムライ体験～

5月24日(土)、郷土資料館で『わんぱくサムライ体験』(市主催)が行われました。

この催しは、子どもたちに武家時代の生活や伝統文化を体験してもらおうと、郷土資料館ボランティアグループSLGや登別伊達時代村などの協力を得て、毎年この時期に開催しています。

会場では、木馬にまたがって弓を射る流鏑馬やぶさめやスポーツチャンバラ、駕籠、日光写真、竹トンボ作り、お茶などの体験プログラム、よさこいソーランや南京玉すだれの披露、すいとんの試食などが行われました。

この日は霧雨で天候には恵まれませんでしたが、薄黄緑色のサクラ『御衣黄』が満開の中、子どもたちはたくさんの体験プログラムを満喫しました。

登別をもっと知ろう

6月3日(火)、『市民見学会』(市主催)が行われ、参加者20人が若山浄化センターやクリンクルセンター、介護老人保健施設グリーンコート三愛のほか、昨年オープンしたのぼりべつ文化交流館『カント・レラ』を見学しました。

この市民見学会は、市民にもっとまちづくりの様子を知ってもらい、市政への理解を深めてもらおうと、市が毎年春と秋に開催しています。

『カント・レラ』では、昨年発掘調査を行った富岸川右岸遺跡の出土品やパネル写真が展示され、参加者は発掘の様子などを興味深く見学していました。また、軟らかな滑石を紙やすりで削る勾玉かぎたま作りにも挑戦。参加者は、「カント・レラを初めて知りました。今度は子どもを連れて来たいです」と感想を話してくれました。

～春の市民見学会～



▲のぼりべつ文化交流館『カント・レラ』